令和5年度自己評価

1. 事業の経過および成果

① 保育事業の実施

- 通常保育（平均利用定員数 109 名）
  ※4 月に 0 歳児 8 名からスタートし、10 月には 0 歳・5 歳児クラスも定員に達し、認可定員数を満たしました。
- 延長保育（月平均登録者数 22 名）
  ※延べ利用者数令和 4 年度384名に対し令和5年度は268名と減少しています。
- 一時保育（延べ利用人数 433 名）
- 休日保育（延べ利用人数 129 名）
  ※八街市全体の休日保育を担っていますが、他園の利用児は 2 名に留まりました。
- 地域子育て支援拠点事業（登録者数 154 組）
  ※新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことを受け、感染予防に努めつつ支援センターの環境を整え、多くの方（延べ利用人数 3,294 名）にご利用いただきました。

② 保育の方針に基づく取り組み

- 子どもの生命の保持（安全）と情緒の安定（安心）の確保
  ※養護と教育を一体的に進めるため、児童の権利擁護に関する振り返りや研修を実施し、内容の充実を図りました。
- 幼児教育機関としての機能強化
  ※「育みたい資質・能力」や「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を目指し、小学校との連携を復活。年長児と小学 1 年生との交流会を実施しました。
- 健康・食育・安全対策の推進
  ※毎月の避難訓練を実施するとともに、給食室の食材についてローリングストック方式で非常食を確保しました。
- 保護者支援の充実と連携
  ※コロナ禍で変容した家族の価値観に寄り添いながら、保護者会や交流行事を再開。「かいたく男塾」も再開に向け準備を開始しました。
- カリキュラムマネジメントの強化
  ※年度初めに全体計画を見直し、各学年の計画に反映しました。
- 特色ある保育の実践
  （1）絵本の読み聞かせを充実（2）全面芝生の園庭を活用した外遊びや野菜栽培の充実

※令和 5 年度後半より千葉県「自然環境保育普及型」に認証され、これまでの自然と関わる保育の意識化を進め、環境整備や職員の意識改革に取り組みました。

③ 職員の資質向上に向けた取り組み

- 職員の確保と定着支援
  ※ 法人研修や目標達成支援を実施し、各自の目標に沿った研修に加えて WEB 研修も導入。園内での共通研修を通じて、学びを深めました。

2. 今後対処すべき課題

① 事業運営の課題

- 保育計画の PDCA サイクルの強化
  ※全体計画・年間カリキュラム・月案・週案・日案の振り返りを徹底し、環境構成の改善を図ります。
- 自然環境保育の充実
  ※令和 6 年度より「自然環境保育重点型」に認証変更されるため、年間計画に組み込み、振り返りや研修を実施します。
- 地域との連携強化
  ※法人内での連携を強化し、園外での活動も積極的に実施します。
  ※地域子育て支援拠点事業として、市の「菜の花事業」への参画や他事業所との連携を推進します。

② 保育環境・職員研修の課題

- 子どもの権利擁護と安全管理の徹底
  ※ヒヤリハット研修を継続し、職員の気づきを増やし保育に生かします。
- インクルーシブ保育の推進
  ※児童発達支援センター「銀河鉄道」との交流や学び合いの場を設け、子どもにとって最適な環境や関わりを強化します。
- 業務継続計画（BCP）の策定
  ※災害時の業務継続のための策定を進めます。

今後も、子どもたちが心身ともに安心して過ごせる環境づくりを進め保育の充実を図るとともに、職員の専門性の向上に努めてまいります。また、保護者の皆様や地域の方々と子どもを真ん中に据え、豊かな成長を育めるよう連携した保育を推進してまいります。